

専修以外の基礎科目

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
人文統計学	統計学の基礎	2	木村 邦博	3	水曜2限
人文統計学	推測統計と多変量解析の 基礎	2	浜田 宏	4	火曜3限
英語演習	英文読解演習(1)	2	三枝 和彦	3	火曜4限
英語演習	英文読解演習(2)	2	三枝 和彦	4	火曜4限
学術英語演習 I	人文科学における学術的 執筆	2	TINK JAMES MIC HAEL	4	月曜3限
高等英文解釈法	高等英文解釈法	2	佐藤 元樹	3	金曜3限
高等英文解釈法	英文解釈の技法	2	佐藤 元樹	4	金曜3限
英語論文作成法	Academic Writing in English I	2	STEPHEN HALE	3	水曜2限
英語論文作成法	Academic Writing in English II	2	STEPHEN HALE	4	水曜2限
ギリシャ語	アリストテレス『魂につい て』第2巻読解その1	2	嶺岸 佑亮	3	月曜3限
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門(1)	2	今井 誠二	3	水曜4限
ギリシャ語	アリストテレス『魂につい て』第2巻読解その2	2	嶺岸 佑亮	4	月曜3限
ギリシャ語	古典ギリシャ語入門(2)	2	今井 誠二	4	水曜4限
ラテン語	ラテン語原典購読	2	荻原 理	3	火曜3限
ラテン語	ラテン語文法入門・文法基 礎	2	宮崎 正美	3	金曜3限
ラテン語	ラテン語原典購読	2	荻原 理	4	火曜3限

専修以外の基礎科目

ラテン語	ラテン語文法および読解	2	宮崎 正美	4	金曜3限
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習 II	2	渡辺 亮	4	木曜3限
サンスクリット語	サンスクリット語基礎演習I	2	渡辺 亮	3	木曜3限
中国語	中国語中級会話	2	張 佩茹	3	水曜2限
中国語	中国語中級会話	2	張 佩茹	4	水曜2限
朝鮮語	韓国語入門	2	権 来順	3	水曜2限
朝鮮語	初級韓国語	2	権 来順	4	水曜2限
イタリア語	イタリア語	2	MARINUCCI LORENZO	3	水曜4限
イタリア語	イタリア語	2	MARINUCCI LORENZO	4	水曜4限
イタリア語	イタリア語	2	MARINUCCI LORENZO	4	木曜3限
イタリア語	イタリア語	2	MARINUCCI LORENZO	4	木曜4限
イタリア語	イタリア語	2	MARINUCCI LORENZO	3	木曜3限
イタリア語	イタリア語	2	MARINUCCI LORENZO	3	木曜4限
専門中国語	中級中国語読解	2	張 佩茹	3	火曜3限
専門中国語	中級中国語読解	2	張 佩茹	4	火曜3限
専門ドイツ語	ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底	2	松崎 裕人	4	水曜4限
専門フランス語	現代フランス語の文章を読む	2	武藤 奈月	4	木曜4限

専修以外の基礎科目

専門フランス語	現代フランス語の文章を 読む	2	武藤 奈月	3	木曜4限
漢文講読	漢文訓読入門	2	渡部 東一郎	4	木曜3限
漢文講読	漢文訓読入門	2	渡部 東一郎	3	木曜3限

科目名：人文統計学

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB33205, 科目ナンバリング：LHM-PRI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：統計学の基礎

2・授業の目的と概要：統計学の基礎を学ぶ。

特に、データ収集・測定の考え方の基本を理解し、代表値や変動の測度の算出、探索的データ解析、分割表（クロス集計表）など、記述統計学の手法を身につける。あわせて、統計分析用の無料ソフトウェア R Statistics や、表計算ソフト Microsoft Excel などを用いた記述統計学的分析について、簡単な実習を行う。

3. 学習の到達目標：官庁統計や簡単な調査報告・論文を読めるようになるための基礎的な統計学について学ぶ。あわせて、統計分析用の無料ソフトウェア R Statistics や、表計算ソフト Microsoft Excel などを用いた記述統計学的分析のしかたを身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

- 1 データと測定(1)：仮説と統計的データ分析
- 2 データと測定(2)：測定と統計的推測
- 3 度数分布と比率(1)：度数分布表とグラフ表示
- 4 度数分布と比率(2)：分位数、度数分布の比較
- 5 代表値と変動(1)：代表値、連続変数の変動の測度
- 6 代表値と変動(2)：連続変数の変動の測度（続き）、離散変数の変動の測度
- 7 データビジュアライゼーション：探索的データ解析
- 8 分割表（クロス集計表）(1)：作成法、カイ二乗値
- 9 分割表（クロス集計表）(2)：独立性検定と適合度検定
- 10 関連の測度(1)：2×2 表の場合
- 11 関連の測度(2)：カテゴリー数の多い 2 元分割表、順序づけ不能な離散変数
- 12 関連の測度(3)：カテゴリー数の多い 2 元分割表、順序づけ可能な離散変数
- 13 3 元分割表分析(1)：因果推論の基礎、疑似相関と媒介関係
- 14 3 元分割表分析(2)：付加効果、交互作用効果、疑似無相関
- 15 まとめ：推測統計学への架橋

5. 成績評価方法：レポート（10 回、Google Classroom で提出）による。

6. 教科書および参考書：教科書：神永正博・木下勉 2023 『R で学ぶ確率統計学 実データ分析編』 内田老鶴園

7. 授業時間外学習：教科書と補足資料（Google Classroom で配付）で予習・復習をする。
指定された問題について、レポート（10 回）を作成し、Google Classroom で提出する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

- (1) 人文統計学（推測統計と多変量解析の基礎）とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 C に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：人文統計学

曜日・講時：火曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB42311, **科目ナンバリング：**LHM-PRI201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：推測統計と多変量解析の基礎

2. 授業の目的と概要：社会調査に必要な統計学について学ぶ。特に、統計的推測・仮説検定の考え方や、パラメータの検定・推定、回帰分析などの手法について理解する。

3. 学習の到達目標：社会調査に必要な統計学について理解し、自ら適用できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：確率変数の基礎
2. 統計的推測
3. 母数の仮説検定
4. OLS 回帰
5. 回帰係数の OLS 推定 (1)
6. 回帰係数の OLS 推定 (2)
7. 重回帰モデル：複数の説明変数
8. DAG と構造的因果モデル
9. 統制変数と DAG
10. 漸近理論の基礎
11. 条件付き期待値による回帰 (1)
12. 条件付き期待値による回帰 (2)
13. 内生性と操作変数法
14. 操作変数法と DAG
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席 (40%)、期末試験 (60%)

6. 教科書および参考書：[教科書] 鹿野 繁樹, 2015, 『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』日本評論社.

7. 授業時間外学習：教科書と配布資料で予習・復習をし、課題に取り組む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本授業は、社会調査士カリキュラムの D 科目（「社会調査に必要な統計学に関する科目」）に該当する。

科目名：英語演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：三枝 和彦

コード：LB32405, 科目ナンバリング：LHM-ENG201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英文読解演習（1）

2・授業の目的と概要：この授業は、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことを通して、英語という言語の歴史について学びつつ、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えることを目的としています。

3. 学習の到達目標：（1）英語の語彙や表現の知識を増やす。

- （2）英文を正確に読むことができるようになる。
- （3）英語という言語に関する知識を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定されたテキストを、授業ごとに 10 数頁ずつ読み進めていきます。

事前に各授業の担当者を指定します。担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などについて発表します。

それを基にして受講者全体による議論を展開していきます。授業者は適宜、質問に答えたり、解説を行ったりしていきます。

また、授業で扱った内容についてコメントを書いて提出します。

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 Chapter 1 The origins of Old English (1)

第 3 回 Chapter 1 The origins of Old English (2)

第 4 回 Chapter 2 The Old English dialects (1)

第 5 回 Chapter 2 The Old English dialects (2)

第 6 回 Chapter 9 A dialect age (1)

第 7 回 Chapter 9 A dialect age (2)

第 8 回 Chapter 10 The emerging standard (1)

第 9 回 Chapter 10 The emerging standard (2)

第 10 回 Chapter 11 Printing and its consequences (1)

第 11 回 Chapter 11 Printing and its consequences (2)

第 12 回 Chapter 12 Early Modern English preoccupations (1)

第 13 回 Chapter 12 Early Modern English preoccupations (2)

第 14 回 Chapter 13 Linguistic daring (1)

第 15 回 Chapter 13 Linguistic daring (2)

5. 成績評価方法：授業への参加と発表（60%）、コメントペーパーの提出（40%）

6. 教科書および参考書：David Crystal, The Stories of English, Penguin, 2004.

使用するテキストのデータを提供します。

7. 授業時間外学習：予習として、必ずテキストを読んでください。特に、発表担当者は入念な準備（レジュメの作成）が必要です。

復習として、テキストを読み直し、授業内容を振り返って知識の定着を図りましょう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2

担当教員：三枝 和彦

コード：LB42405, **科目ナンバリング：**LHM-ENG201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英文読解演習（2）

2・授業の目的と概要：この授業は、英語がどのように発展してきたかについての本を読むことを通して、英語という言語の歴史について学びつつ、英語の語彙や表現の知識を増やし、英文を正確に読む力を鍛えることを目的としています。

3. 学習の到達目標：（1）英語の語彙や表現の知識を増やす。

（2）英文を正確に読むことができるようになる。

（3）英語という言語に関する知識を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定されたテキストを、授業ごとに 10 数頁ずつ読み進めていきます。

事前に各授業の担当者を指定します。担当者は該当箇所の要約と、注目した事項や疑問点などについて発表します。

それを基にして受講者全体による議論を展開していきます。授業者は適宜、質問に答えたり、解説を行ったりしていきます。

また、授業で扱った内容についてコメントを書いて提出します。

第1回 Orientation

第2回 Chapter 14 Dialect fallout (1)

第3回 Chapter 14 Dialect fallout (2)

第4回 Chapter 15 Stabilizing disorder (1)

第5回 Chapter 15 Stabilizing disorder (2)

第6回 Chapter 16 Standard rules (1)

第7回 Chapter 16 Standard rules (2)

第8回 Chapter 17 New horizons (1)

第9回 Chapter 17 New horizons (2)

第10回 Chapter 18 Linguistic life goes on (1)

第11回 Chapter 18 Linguistic life goes on (2)

第12回 Chapter 19 And dialect life goes on (1)

第13回 Chapter 19 And dialect life goes on (2)

第14回 Chapter 20 Times a-changin' (1)

第15回 Chapter 20 Times a-changin' (2)

5. 成績評価方法：授業への参加と発表（60%）、コメントペーパーの提出（40%）

6. 教科書および参考書：David Crystal, The Stories of English, Penguin, 2004.

使用するテキストのデータを提供します。

7. 授業時間外学習：予習として、必ずテキストを読んでください。特に発表担当者は入念な準備（レジュメの作成）が必要です。

復習として、テキストを読み直し、授業内容を振り返って知識の定着を図りましょう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：学術英語演習 I

曜日・講時：月曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHAEL

コード：LB41304, 科目ナンバリング：LHM-LIT341E, 使用言語：英語

1. 授業題目：人文科学における学術的執筆

2・授業の目的と概要：この授業では、学生は少なくとも5段落からなる連続した英文で学術論文を書く方法を学びます。毎週、トピックと論旨の策定から段落の構成・編集に至るまで、執筆プロセスの各段階を復習します。学期前半では5段落構成の論文を執筆し、後半では学術研究における出典の適切な使用法、剽窃回避、各種引用形式の活用について検討します。コース終了までに、学生は自ら選んだ学術的テーマについて、引用と文献目録を伴う第二の論文を完成させることを目標とします。

3. 学習の到達目標：1: 英語による学術論文・学期末レポートの執筆

2: 人文科学分野における学術的報告書作成の段階を学ぶ

2: 学術的引用方法の紹介

4: 英語による文章コミュニケーションの自信を高め、実践する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 はじめに

第2回 エッセイのテーマ選び

第3回 論旨の提示

第4回 導入部

第5回 本文段落

第6回 考えをつなぐ

第7回 結論

第8回 出典の活用：引用

第9回 要約と言い換え

第10回 引用表記

第11回 参考文献

第12回 定義

第13回 論証

第14回 剽窃

第15回 総括

5. 成績評価方法：第1回小論文 30%最終小論文 40%週間小課題 30%

6. 教科書および参考書：書籍不要

7. 授業時間外学習：段階的に5段落のエッセイを書く

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：高等英文解釈法

曜日・講時：金曜 3 限

semester：3 単位数：2

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB35306, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：高等英文解釈法

2・授業の目的と概要：本授業では、記事、エッセイ、ブログ、論文、インタビューなど、様々な形式のジャンルの英文テキストを取り上げ、英語の読解力および批判的思考力を養成します。各回の授業では、パラグラフごとの要点特定、事実と意見の違いの認識、情報の分類・整理を行うことで、英語の読解力を高めます。また、読んだ内容についてペアワークや意見交換を行い、お互いに学び合いながら、批判的思考力も養います。

3. 学習の到達目標：英文を正確に読み、パラグラフの要点を特定すること、事実と意見を区別すること、情報を分類することができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Sociology - Reading 1: We all need a role model
3. Unit 1 Sociology - Reading 2: Everyday heroes
4. Unit 1 Sociology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
5. Unit 2 Behavioral Science - Reading 1: Your Guide to Generation Z
6. Unit 2 Behavioral Science - Reading 2: This is why you're addicted to your phone
7. Unit 2 Behavioral Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
8. Unit Test 学習事項の確認
9. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 1: The difference between fitting in and belonging, and why it matters
10. Unit 3 Developmental Psychology - Reading 2: Life lessons I learned from my dad in 23 years
11. Unit 3 Developmental Psychology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
12. Unit 4 Science and Technology - Reading 1: Five innovative technologies that bring energy to the developing world
13. Unit 4 Science and Technology - Reading 2: This device pulls water out of desert air
14. Unit 4 Science and Technology - Reading skill / critical thinking strategy/ writing skill
15. まとめ解説と学期末試験

5. 成績評価方法：出席が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。授業内アクティビティ (10%)、課題 (20%)、学期末試験 (70%) にもとづいて、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.

7. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、アクティビティに取り組む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

学習者用の英英辞書や英和辞書を持参すること。

科目名：高等英文解釈法

曜日・講時：金曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：佐藤 元樹

コード：LB45308, 科目ナンバリング：LHM-ENG202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英文解釈の技法

2・授業の目的と概要：本授業では、記事、エッセイ、ブログ、論文、インタビューなど、様々な形式のジャンルの英文テキストを取り上げ、英語の読解力および批判的思考力を養成します。各回の授業では、パラグラフごとの要点特定、事実と意見の違いの認識、情報の分類・整理を行うことで、英語の読解力を高めます。また、読んだ内容についてペアワークや意見交換を行い、お互いに学び合いながら、批判的思考力も養います。

3. 学習の到達目標：英文を正確に読み、要点と細部を区別すること、対比的な考えを判別すること、著者の意図を理解すること、推測して結論を出すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. Unit 5 Nutritional Science - Reading 1: Eating well
3. Unit 5 Nutritional Science - Reading 2: A personalized nutrition company will use your DNA to tell you what to eat
4. Unit 5 Nutritional Science - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
5. Unit 6 Education- Reading 1: From student to employee
6. Unit 6 Education - Reading 2: Making my first post-college career decision
7. Unit 6 Education - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
8. Unit Test 学習事項の確認
9. Unit 7 Geology- Reading 1: Ocean discoveries
10. Unit 7 Geology - Reading 2: Alaska' s Pebble Mine
11. Unit 7 Geology - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
12. Unit 8 Engineering - Reading 1: The Tacoma narrows bridge collapse and the lessons learned
13. Unit 8 Engineering - Reading 2: How to design a student project that benefits the developing world
14. Unit 8 Engineering - Reading skill / critical thinking strategy / writing skill
15. まとめの解説と学期末試験

5. 成績評価方法：出席が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。
授業内アクティビティ (10%)、課題 (20%)、学期末試験 (70%) にもとづいて、総合的に評価する

6. 教科書および参考書：Daise, Debra and Charl Norloff, Q: Skills for Success Level 4 Reading and Writing 3rd edition, Oxford UP, 2019.

7. 授業時間外学習：授業で扱ったテキストを読み返し、アクティビティに取り組む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

学習者用の英英辞書や英和辞書を持参すること。

科目名：英語論文作成法

曜日・講時：水曜 2 限

semester：3 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LB33206, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：English

1. 授業題目：Academic Writing in English I

2・授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn and practice the basics for: (1) common and uncommon uses of a variety of punctuation marks; (2) the correct page layout for writing paragraphs and essays; (3) sentence, paragraph, and essay structure for different essay types; and (4) strategies for pre-writing, writing, proofreading and revision.

Note that all writing in this course will essentially be collaborative as a result of input and revision advice from peers and instructor alike. In other words, only revised second drafts of writing will be accepted for evaluation (scoring). Also note that Academic Writing I is a prerequisite course for acquiring the skills needed for succeeding in Academic Writing II, which focuses on all steps and related issues in the process of research paper writing in English.

3. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
- 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester I Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
- 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
- 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
- 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
- 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
- 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
- 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
- 8) Writing Workshop for Assignment 2
- 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
- 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
- 11) Writing Workshop for Assignment 3
- 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
- 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
- 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester I Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：英語論文作成法

曜日・講時：水曜 2 限

Semester : 4 単位数 : 2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LB43204, 科目ナンバリング：LHM-ENG203E, 使用言語：English

1. 授業題目：Academic Writing in English II

2・授業の目的と概要：Academic Writing in English II is a continuation of Academic Writing in English I (AWEI) from the spring semester; therefore successful completion of AWEI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester, students will focus on producing a fully documented research paper in English (8-12 substantial paragraphs in length). Students will thus systematically study the research process and learn how to present research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material. This process will also include writing an abstract (summary) and an oral presentation of research findings.

3. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systematical

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Class Schedule and Activities for 15 lessons

- 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
- 3) Gathering and Evaluating Source Materials
- 4) Paragraph Organization and Note-Taking
- 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
- 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
- 7) Model Analysis; Writing an Outline
- 8) Writing Workshop 1
- 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
- 10) Writing Workshop 2
- 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
- 12) Writing Workshop 3
- 13) Abstract Writing; Presentation of Research
- 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester II Test

5. 成績評価方法：The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

6. 教科書および参考書：Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern La

7. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consi

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：月曜3限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB31301, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：ギリシア語

1. 授業題目：アリストテレス『魂について』第2巻読解その1

2. 授業の目的と概要：アリストテレスの『魂について』は、感覚や表象や思考など、生命体としての人間の基本的な能力と活動について哲学史上最初の包括的な理論を提示した最重要テキストの一つです。本テキストを読解することで、生命体としての人間とその活動とはいったいどのようなものであるか、ということについておおよその見通しを得ることを目指します。この授業では、アリストテレスのテキストを古代ギリシア語の原典で実際に読解することを通じて、古代ギリシア語の読解力を高めることも目標とします。

3. 学習の到達目標：アリストテレスの哲学的テキストを自力で訳すことが出来るようになる

- ・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
- ・辞書・文法書を活用することが出来るようになる

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）

- ・第2回：第2巻読解 1～30行
- ・第3回：第2巻読解 31～60行
- ・第4回：第2巻読解 61～90行
- ・第5回：第2巻読解 91～120行
- ・第6回：第2巻読解 121～150行
- ・第7回：第2巻読解 150～180行
- ・第8回：第2巻読解 181～210行
- ・第9回：第2巻読解 210～250行
- ・第10回：第2巻読解 251～290行
- ・第11回：第2巻読解 291～330行
- ・第12回：第2巻読解 331～370行
- ・第13回：第2巻読解 371～410行
- ・第14回：第2巻読解 411～450行
- ・第15回：全体のまとめ

5. 成績評価方法：出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

6. 教科書および参考書：教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。

辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。

7. 授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として 5～15 行程度の予習が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：今井 誠二

コード：LB33404, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：ギリシャ語

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（1）

2・授業の目的と概要：古典ギリシャ語のアルファベットの学習から始めて、名詞、形容詞、動詞等の必要最小限の文法事項を習得する。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については、資料などを補いつつ解説する。

3. 学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

“ギリシャ文字と発音、アクセント

第1・第2変化名詞及び形容詞、定冠詞

ω動詞：直説法能動相現在及び未来

ω動詞：直説法能動相未完了過去及びアオリスト、不定詞を用いた間接話法

ω動詞；直説法能動相第2アオリスト、結果文、時の表現

前接辞と後接辞、疑問代名詞と不定代名詞、動詞 ε ι μ ι と φ η μ ι、所有の与格

第3変化名詞：子音幹、限定の対格及び与格

第3変化名詞、母音融合を行う第1・第2変化形容詞

第3変化名詞：母音幹、関係代名詞

指示代名詞、強意代名詞 α υ τ ο ς

形容詞および副詞の比較、η δ ι ω ν の変化

母音融合動詞

流音・鼻音幹動詞の未来、人称代名詞

-υς -ε ι α -υ 型および -ης -ε ς 型の形容詞

π α ς, μ ε γ α ς, π ο λ υ ς の変化

μ ι 動詞：ι σ τ η μ ι と δ ι δ ω μ ι の直接法能動相現在・未完了過去・アオリスト

μ ι 動詞：τ ι θ η μ ι, ι η μ ι, ε ι μ ι, δ ε κ ν υ μ ι”

5. 成績評価方法：授業参加状況 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

6. 教科書および参考書：水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

7. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：月曜3限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LB41305, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：ギリシャ語

1. 授業題目：アリストテレス『魂について』第2巻読解その2

2. 授業の目的と概要：この授業では前期に引き続き、アリストテレスの『魂について』の第2巻を取り上げます。このテキストは、感覚や表象や思考など、生命体としての人間の基本的な能力と活動について哲学史上最初の包括的な理論を提示した最重要テキストの一つです。本テキストを読解することで、生命体としての人間とその活動とはいったいどのようなものであるか、ということについておおよその見通しを得ることを目指します。この授業では、アリストテレスのテキストを古代ギリシア語の原典で実際に読解することを通じて、古代ギリシア語の読解力を高めることも目標とします。また授業の進み具合や参加者の関心に応じて、『魂について』の第3巻や、アリストテレスの他のテキストを取り上げることもあります。

3. 学習の到達目標：・アリストテレスの哲学的テキストを自力で訳すことが出来るようになる
・ギリシア語特有の語形変化になれ、正しく分析することが出来るようになる
・辞書・文法書を活用することが出来るようになる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・第1回：イントロダクション（演習の内容と方法、について）
- ・第2回：第2巻読解 1～30行
- ・第3回：第2巻読解 31～60行
- ・第4回：第2巻読解 61～90行
- ・第5回：第2巻読解 91～120行
- ・第6回：第2巻読解 121～150行
- ・第7回：第2巻読解 150～180行
- ・第8回：第2巻読解 181～210行
- ・第9回：第2巻読解 210～250行
- ・第10回：第2巻読解 251～290行
- ・第11回：第2巻読解 291～330行
- ・第12回：第2巻読解 331～370行
- ・第13回：第2巻読解 371～410行
- ・第14回：第2巻読解 411～450行
- ・第15回：全体のまとめ

5. 成績評価方法：出席および平常点（毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加）

6. 教科書および参考書：教科書および参考書：テキストは講師がコピーを配布します。
辞書は、Lidelle and Scott's Greel-English Lexicon, Oxford の abridged edition を使用します。

7. 授業時間外学習：授業時間外学修：各回の予習として5～15行程度の予習が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ギリシャ語

曜日・講時：水曜 4 限

semester：4 単位数：2

担当教員：今井 誠二

コード：LB43406, 科目ナンバリング：LHM-OFL201J, 使用言語：ギリシャ語

1. 授業題目：古典ギリシャ語入門（2）

2. 授業の目的と概要：前期に引き続き、古典ギリシャ語の文法の初歩の学びを深める。基本的には教科書に沿って進めていくが、適宜順序を変える。重要な文法事項については資料を追加して解説する。

3. 学習の到達目標：古典ギリシア語の文法の基礎を習得し、簡単な文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

ω 動詞の能動相現在・未来・第2アオリストの分詞、分詞の用法

ω 動詞の能動相アオリストの分詞、μ ι 動詞の能動相現在および第2アオリストの分詞

接続法能動相現在およびアオリスト、主文における接続法の用法、接続法を用いた条件文

希求法能動相現在・未来・アオリスト、主文における希求法の用法、目的文

希求法を用いた条件文、ο τ ι, ω ς によって導入される間接話法、話法転換時の動詞の法の変化

直接法中・受動相現在、直接法中・受動相未来、能動相欠如動詞、危惧・恐怖を表す文

直接法中・受動相未完了過去、直接法中・受動相第2アオリスト、再帰代名詞、所有代名詞、配慮・努力を表す文

直接法中・受動相アオリスト、事実と反する仮定の条件文、過去の仮定を表す文

接続法中・受動相現在、接続法中・受動相アオリスト、ε ω ς, π ρ ι ν の用法

希求法中・受動相現在、希求法中・受動相アオリスト・未来

受動相アオリストおよび未来、行為者を表す υ π ο + 属格、手段・方法の与格

能動相完了・過去完了・未来完了

中・受動相完了、過去完了、未来完了、行為者の与格

命令法：ω 動詞

命令法：μ ι 動詞

μ ι 動詞型の変化をする第2アオリスト、動形容詞、動詞の腫瘍部分

数詞

5. 成績評価方法：出席 60%、毎回の授業の課題達成度 40%

6. 教科書および参考書：水谷智洋著『古典ギリシャ語初歩』岩波書店 1990 年発行、3500 円+税

7. 授業時間外学習：語形変化を何度も書いて復習し、仕組みを理解すること。定期的に簡単な書き取りテストを行って復習がなされているかを点検する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ラテン語

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB32309, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ラテン語原典購読

2・授業の目的と概要：ラテン語の初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しがあっても構いません）。語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法の解説を受けながら、非常にゆっくり、丁寧に読んでいきます。テキストの音読もします。語形変化の練習に時間を取ります。気軽に質問してください。そうしてラテン語に馴れていきます。

テキストは、参加者の希望・関心を訊きながら教員が選びます。ジャンル（哲学、歴史、文学）の異なる複数のテキストを読むことになるのではと思います。（過去年度に取り上げたことのあるのは、カエサル、タキトゥス、ホラティウス、オウィディウス、ルクレティウス、キケロ、アウグスティヌス、トマス・アクィナス、ローマ法、教皇の書簡、デカルト、スピノザ、カントなどです。）

3. 学習の到達目標：授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

ラテン語に親しむ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の予定は変更がありうる。

最初の数回分のテキスト（テキスト1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト2以降）。

第1回：イントロ

テキスト1 たとえば 1-3 行

第2回：テキスト1 たとえば 4-7 行

第3回：テキスト1 たとえば 8-12 行

第4回：テキスト2 たとえば 1-5 行

第5回：テキスト2 たとえば 6-10 行

第6回：テキスト2 たとえば 11-15 行

第7回：テキスト2 たとえば 16-20 行

第8回：テキスト2 たとえば 21-26 行

第9回：テキスト2 たとえば 27-32 行

第10回：テキスト3 たとえば 1-6 行

第11回：テキスト3 たとえば 7-12 行

第12回：テキスト3 たとえば 12-18 行

第13回：テキスト3 たとえば 19-24 行

第14回：テキスト3 たとえば 25-32 行

第15回：テキスト3 たとえば 33-38 行

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968年初版、改訂1979年）を各自入手して下さい。

読むテキストはクラスルームで提供します。

7. 授業時間外学習：授業で学んだ文章の復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：ラテン語

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB35307, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：ラテン語

1. 授業題目：ラテン語文法入門・文法基礎

2. 授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の文法の全体像をつかんだ上で、文法の基礎的事項を習得することを目的とする。授業は、学ぶ上での重要な点や注意すべき点を指摘しながら解説する。

3. 学習の到達目標：テン語文法理解の基礎となる事項（動詞・名詞・形容詞・代名詞その他）を修得し、どのような特徴をもった言語であるかを学ぶこと。
さらに格言など簡単なラテン語文章を読解できるようになることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

1. イントロダクション
2. アルファベット、発音、音節・アクセント規則
3. 動詞の基礎（1） 人称語尾、4活用型とその判別法、sum 動詞
4. 動詞の基礎（2） 現在幹、命令法
5. 名詞の基礎（1） 性・数・格、5変化型とその判別法、第1変化
6. 名詞の基礎（2） 第2変化、第3変化①i 幹
7. 名詞の基礎（3） 第3変化②子音幹、前置詞（対格、奪格）
8. 名詞の基礎（4） 属格の用法、与格の用法、第4変化、第5変化名詞の基礎
9. 形容詞（1） 性・数・格の一致、第1・第2変化型
10. 形容詞（2） 第3変化型
11. 形容詞（3） 比較級、最上級、副詞、数詞
12. 代名詞（1） 代名詞の概観、人称代名詞・再帰代名詞、所有代名詞・形容詞
13. 代名詞（2） 指示代名詞・形容詞①
14. 代名詞（3） 指示代名詞・形容詞②、限定代名詞・形容詞、強意代名詞・形容詞
15. 代名詞（4） 関係代名詞・形容詞、疑問代名詞・形容詞、その他の代名詞・形容詞

5. 成績評価方法：出席日数が総授業数の2/3以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

6. 教科書および参考書：教科書としてプリントを配付する。

書名 羅和辞典（改訂版）

著者名 水谷智洋

出版社 研究社

出版年 2009

ISBN/ISSN 978-4767490250

資料種別 参考書

（辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい）

7. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用するなどにより、各回授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業へのパソコン持ち込み：【必要】

履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。

科目名：ラテン語

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB42312, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ラテン語原典購読

2・授業の目的と概要：ラテン語の初等文法を一通り学んでいることが参加の条件です（覚え残しがあっても構いません）。

語学上比較的やさしいラテン語の文章を、文法の解説を受けながら、非常にゆっくり、丁寧に読んでいきます。テキストの音読もします。語形変化の練習に時間を取ります。気軽に質問してください。そうしてラテン語に馴れていきます。（前期のラテン語原典購読に参加された方が今学期の参加者の多数だと思しますので、前期より若干ペースアップ、レベルアップすることになると思います。）

テキストは、参加者の希望・関心を訊きながら教員が選びます。ジャンル（哲学、歴史、文学）の異なる複数のテキストを読むことになるのではと思います。（過去年度に取り上げたことのあるのは、カエサル、タキトゥス、ホラティウス、オウィディウス、ルクレティウス、キケロ、アウグスティヌス、トマス・アキナス、ローマ法、教皇の書簡、デカルト、スピノザ、カントなどです。）

3. 学習の到達目標：授業中読んだ文章については、ラテン語を読みながら文章の意味を捉えられるようになり、また、各語についても構文についても、文法的に説明できるようになる。

ラテン語に親しむ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の予定は変更がありうる。

最初の数回分のテキスト（テキスト1）は教員が選ぶが、参加者の関心に応じてさらにテキストを選定していく（テキスト2以降）。

第1回：イントロ

テキスト1 たとえば 1-5 行

第2回：テキスト1 たとえば 6-10 行

第3回：テキスト1 たとえば 11-16 行

第4回：テキスト2 たとえば 1-6 行

第5回：テキスト2 たとえば 6-11 行

第6回：テキスト2 たとえば 12-17 行

第7回：テキスト2 たとえば 18-22 行

第8回：テキスト2 たとえば 22-27 行

第9回：テキスト2 たとえば 28-33 行

第10回：テキスト3 たとえば 1-7 行

第11回：テキスト3 たとえば 8-13 行

第12回：テキスト3 たとえば 14-20 行

第13回：テキスト3 たとえば 21-28 行

第14回：テキスト3 たとえば 29-36 行

第15回：テキスト3 たとえば 36-43 行

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』（南江堂、1968年初版、改訂1979年）を各自入手して下さい。

読むテキストはクラスルームで提供します。

7. 授業時間外学習：授業で学んだ文章の復習（とくに、意味を捉えながらの音読）。次回読む予定の箇所の下調べ（できる範囲で）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ラテン語

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB45309, 科目ナンバリング：LHM-OFL202J, 使用言語：ラテン語

1. 授業題目：ラテン語文法および読解

2・授業の目的と概要：この授業では、受講生が、ラテン語の基礎的文法の仕上げをすることを目的とする。総合的な読解力のために、さまざまな時代の文献を対象として、古文書学やキリスト教に関する基本的知識をもとにして、読解する。それにより、学術的研究にラテン語の果たす役割の一端を実感できるであろう。

3. 学習の到達目標：(1) ラテン語動詞の多様な用法、文章構成を学ぶこと。
(2) ラテン語原典にふれて読解力がつくようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。内容および進度予定は以下のとおりであるが、若干内容を変更する場合がある。

- 第1回 イントロダクション動詞の態・時制・法の概略、現在幹を基にした不定法現在、命令法
- 第2回 動詞の「完了」「未完了」、動詞の時制の概観、未完了過去（直説法能動態）、未来（直説法能動態）、sum の未完了過去、未来
- 第3回 受動態人称語尾、形式受動態語尾（デポネンティア動詞）、命令法受動態
- 第4回 完了（直説法能動態）、完了幹、過去完了（直説法能動態）、未来完了（直説法能動態）
- 第5回 分詞（1） 分詞の種類と性格、性・数・格、現在分詞
- 第6回 分詞（2） 完了分詞、未来分詞、目的分詞
- 第7回 非人称動詞、不定法（現在、完了、未来）、動名詞
- 第8回 動形容詞、奪格別句
- 第9回 接続法（1） 接続法現在（能動態）、単文での用法、接続法の基本用法
- 第10回 接続法（2） 接続法現在（受動態）、接続法未完了過去（能動態・受動態）、接続法完了（能動態・受動態）、接続法過去完了（能動態・受動態）、
- 第11回 接続法（3） 時制の対応関係、間接話法（疑問文、命令文）、目的文
- 第12回 接続法（4） 程度文・結果文、条件文・譲歩文
- 第13回 原典講読①
- 第14回 原典講読②
- 第15回 原典講読③

5. 成績評価方法：出席日数が総授業数の2/3以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

6. 教科書および参考書：教科書としてプリントを配付する。

書名 羅和辞典（改訂版）

著者名 水谷智洋

出版社 研究社

出版年 2009

ISBN/ISSN 978-4767490250

資料種別 参考書

（辞書は参考書としているが、受講のためには必要と考えてほしい）

7. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

テキストの練習問題を利用するなどにより、各回授業の内容を理解し、例文の文法解析をしておく

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

授業へのパソコン持ち込み：【必要】

履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。

科目名：サンスクリット語

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 I

2. 授業の目的と概要：ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして平易なサンスクリット文の読解演習を行い、サンスクリット語文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記のほか、ホイットニーの文法書を適宜参照しながら読み進める。インド古典文学の理解のため、必要に応じて古代インド文化の概説を行う。

3. 学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『ナラ王物語』第1章 (ナラ王とダマヤンティーの生い立ち) 1-4
3. 『ナラ王物語』第1章 5-8
4. 『ナラ王物語』第1章 9-12
5. 『ナラ王物語』第1章 13-16
6. 『ナラ王物語』第1章 17-21
7. 『ナラ王物語』第1章 22-26
8. 『ナラ王物語』第1章 27-32
9. 『ナラ王物語』第2章 (婿選びの御触れ) 1-6
10. 『ナラ王物語』第2章 7-13
11. 『ナラ王物語』第2章 14-20
12. 『ナラ王物語』第2章 21-28
13. 『ナラ王物語』第2章 29-30, 第3章 (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-6
14. 『ナラ王物語』第3章 7-14
15. 『ナラ王物語』第3章 15-22

5. 成績評価方法：授業への出席状況と受講態度 (40%)、授業内容の理解度 (40%) および予習 (20%)

6. 教科書および参考書：C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar

7. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

サンスクリット語初級の知識を有すること。冬セメスターのサンスクリット語 (サンスクリット語基礎演習 II) と併せて受講するのが望ましい。

科目名：サンスクリット語

曜日・講時：木曜3限

semester：4 単位数：2

担当教員：渡辺 亮

コード：LB44302, 科目ナンバリング：LHM-OFL203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：サンスクリット語基礎演習 II

2. 授業の目的と概要：前期に引き続き、ランマンの『サンスクリット読本』をテキストとして読解演習を行い、サンスクリット語の文法・語彙の理解を深める。テキストの語彙集・注記ばかりでなく、ホイットニーの文法書およびシュパイエルの統語法書を適宜参照しながら読み進める。

3. 学習の到達目標：平易なサンスクリット語の文章を訳せるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 『ナラ王物語』第3章 23-25, 第4章 (ナラ王とダマヤンティーの対話) 1-5
3. 『ナラ王物語』第4章 6-13
4. 『ナラ王物語』第4章 14-22
5. 『ナラ王物語』第4章 23-31
6. 『ナラ王物語』第5章 (婿選びの式) 1-9
7. 『ナラ王物語』第5章 10-18
8. 『ナラ王物語』第5章 19-27
9. 『ナラ王物語』第5章 28-36
10. 『ナラ王物語』第5章 37-46
11. 『有益な教え (ヒトーバデーシャ)』イントロダクション, プロローグ
12. 『有益な教え』プロローグ
13. 『有益な教え』プロローグ
14. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」
15. 『有益な教え』「老いた虎と旅人」

5. 成績評価方法：授業への出席状況と受講態度 (40%), 授業内容の理解度 (40%) および予習 (20%)

6. 教科書および参考書：C. R. Lanman: A Sanskrit Reader, W. D. Whitney: Sanskrit Grammar, J. S. Speijer: Sanskrit Syntax

7. 授業時間外学習：個々の語形を文法的に解析したうえ、指定された部分を訳しておくこと。毎回の授業の復習に十分に時間をかけること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

サンスクリット語初級の知識を有すること。夏semesterのサンスクリット語 (サンスクリット語基礎演習 I) と併せて受講するのが望ましい。

科目名：中国語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB33207, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中国語中級会話

2・授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの会話能力を身につけることを目的とする。リスニングの練習をしながら、それに関連するテーマで話し合う。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

3. 学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語で話すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

テーマに沿って、リスニングおよび会話練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 1-1 ステレオタイプとは？

第3回 1-2 北京の人と上海の人

第4回 1-3 東北の人と西北の人

第5回 1-4 四川省の人と湖南省の人

第6回 1-5 浙江省の人と広東省の人

第7回 1-6 ステレオタイプの捉え方

第8回 2-1 年代と名前の関係は？ & 2-2 50、60年代生まれの方の名前

第9回 2-3 80年代生まれの方の名前 & 2-4 同名問題はどうする？

第10回 2-5 2000年以降の名付けの傾向 & 2-6 名前に込められた愛

第11回 3-1 忘れられつつある中国の古民家

第12回 3-2 四川省の石の塔の建て方 & 3-3 石塔が高い理由は

第13回 3-4 広東省開平県の「碉楼」の特徴 & 3-5 開平県の「碉楼」の存在意義

第14回 3-6 福建省の不思議な土楼 & 3-7 古民家の現在

第15回 期末まとめ

5. 成績評価方法：平常点：40%

期末試験：60%

6. 教科書および参考書：<教科書>『聴く中国語 中国大接近』、謝辰著、三修社、2023年

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

7. 授業時間外学習：予習：テーマに関連する単語の用法を事前に調べておく。

復習：しっかり理解できるまで、リスニングの音源を複数回聞く。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：中国語

曜日・講時：水曜2限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB43205, 科目ナンバリング：LHM-CHN201J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中国語中級会話

2・授業の目的と概要：初級クラスで学習した中国語の語彙と基礎文法をベースに、使える表現を増やし、中級レベルの会話能力を身につけることを目的とする。リスニングの練習をしながら、それに関連するテーマで話し合う。中国語らしい表現を体得し、中国語での発信力を磨く。

3. 学習の到達目標：身近な話題について、自分の考えを正確に中国語で話すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

テーマに沿って、リスニングおよび会話練習をする。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 4-1 中国での猫の人気ぶり & 4-2 中国の若者は犬派より猫派のわけは？

第3回 4-3 猫グッズはどんな物がある？ & 4-4 「猫のしもべ」たちの日常

第4回 4-5 我々はなぜ「猫のしもべ」になったのか？ & 4-6 中国の若者と愛猫の未来

第5回 5-1 中国のどこが一番「HOT」？ & 5-2 四川・重慶の「麻辣」

第6回 5-3 湖南の「香辣」 & 5-4 湖北の「鹵辣」

第7回 5-5 雲南・貴州の「糟辣」と「酸辣」1 & 5-6 雲南・貴州の「糟辣」と「酸辣」2

第8回 5-7 陝西の「酢辣」 & 5-8 江西の「激辛」

第9回 6-1 1972年の歴史的な瞬間 & 6-2 日中平和友好条約の締結と鄧小平の訪日

第10回 6-3 日中経済貿易の五十年

第11回 6-4 日中文化交流の半世紀

第12回 6-5 むこうで受けの良い映画・ドラマ・アニメ作品

第13回 6-6 摩擦もあつての助け合いの五十年

第14回 6-7 日中友好の未来のために

第15回 期末まとめ

5. 成績評価方法：平常点：40%

期末試験：60%

6. 教科書および参考書：<教科書>『聴く中国語 中国大接近』、謝辰著、三修社、2023年

<参考書>『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、守屋 宏則ら著、東方書店、2019年

7. 授業時間外学習：予習：テーマに関連する単語の用法を事前に調べておく。

復習：しっかり理解できるまで、リスニングの音源を複数回聞く。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：朝鮮語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB33208, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：朝鮮語と日本語

1. 授業題目：韓国語入門

2. 授業の目的と概要：韓国語（ハングル）に関する全体像を身につけ、韓国語の読み書きができることをめざす。

3. 学習の到達目標：学習の入り口としてハングル文字の仕組みを理解し、韓国語への興味を持たせることを目的とする。特に日本語にない発音に重点を置き、正確な韓国語の発音を練習する。韓国の文化、風習などの視聴覚資料を使い、基本文法と会話を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イン트로ダクション：授業の全般的説明、学修方法などについてガイダンスを行う。
2. 韓国語の基本母音と子音に関して、6 個の基本母音と 5 個の子音【平音】の組み合わせ
3. 韓国語の基本母音と子音に関して、4 個の基本母音と 5 個の子音【平音】の組み合わせ
4. 韓国語の基本母音と子音に関して、10 個の基本母音と 4 個の子音【激音】の組み合わせ
5. 韓国語の基本母音と子音に関して、基本母音 10 個と 5 個の子音【濃音】の組み合わせ
6. 11 個の複合母音の学習
7. 一つ文字終声(パッチム)→連音化、流音化、有声音化の学習
8. 二つ文字終声(パッチム)→激音化、濃音化、鼻音化の学習、日本語のハングル(韓国語)表記練習
9. 助詞「～は」と「～です」の表現→「あなたはどこの国の人ですか」など、相手の国籍の尋ねや答え方、自己紹介
10. 助詞「～は」を用いて「名詞+です」、「名詞+ですか」、「名詞+ではない」の文型を練習
11. 指示表現と所有表現の学習
12. 助詞「～を」と動詞の丁寧表現、「～ます、～ています」の学習
13. 助詞「～に、～も」を用いて位置名詞を学習場所や方向など、位置を表す表現を学び、道や場所を尋ねる練習をする
14. 助詞「～で」、動詞の否定形を練習
15. 総まとめと試験

5. 成績評価方法：期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。

6. 教科書および参考書：パレン韓国語(権来順外 5 人)、朝日出版社
ISBN978-4-255-55663-5

7. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：朝鮮語

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：権 来順

コード：LB43206, 科目ナンバリング：LHM-KOR201J, 使用言語：朝鮮語

日本語

1. 授業題目：初級韓国語

2. 授業の目的と概要：韓国語の読解力と簡単な生活会話をめざす。

3. 学習の到達目標：日常生活に必要な語彙や表現力を高め、コミュニケーション能力を養う

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 現在形の用言活用 Ⅰ (規則活用)
3. 現在形の用言活用 Ⅱ (規則活用)
4. 現在形の用言活用 (変則活用)
5. 固有語数詞、時間、買い物、値段などの表現
6. 過去形の用言活用 Ⅰ (規則活用)
7. 過去形の用言活用 Ⅱ (規則活用)
8. 過去形の用言活用 (変則活用)
9. 願望を表す表現
10. 意志を表す表現
11. 目的を表す表現
12. 格式体敬語表現
13. 非格式体敬語表現
14. 意向・意見・勧誘の表現
15. 総まとめと試験

5. 成績評価方法：期末筆記試験 30%、小テスト 20%、平常点(授業態度の積極性)50%によって評価する。

6. 教科書および参考書：パルン韓国語(権来順外 5 人)、朝日出版社

ISBN978-4-255-55663-5

7. 授業時間外学習：毎回の学習した内容を復習し次の授業に生かすために、新しい語彙や単語の単語帳を作ること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：イタリア語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

2. 授業の目的と概要：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

3. 学習の到達目標：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学 2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

5. 成績評価方法：期末試験

6. 教科書および参考書：資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

7. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜3限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB34303, 科目ナンバリング：LHM-OFL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

2. 授業の目的と概要：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

3. 学習の到達目標：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

5. 成績評価方法：期末試験

6. 教科書および参考書：資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

7. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB34401, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

2. 授業の目的と概要：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

3. 学習の到達目標：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学 2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

5. 成績評価方法：期末試験

6. 教科書および参考書：資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

7. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：イタリア語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB43407, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

2. 授業の目的と概要：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

3. 学習の到達目標：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学 2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

5. 成績評価方法：期末試験

6. 教科書および参考書：資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

7. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜3限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB44303, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

2. 授業の目的と概要：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

3. 学習の到達目標：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

5. 成績評価方法：期末試験

6. 教科書および参考書：資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

7. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：イタリア語

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LB44401, 科目ナンバリング：LHM-0FL204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

2. 授業の目的と概要：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

3. 学習の到達目標：学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学 2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

5. 成績評価方法：期末試験

6. 教科書および参考書：資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

7. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：専門中国語

曜日・講時：火曜3限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB32310, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中級中国語読解

2・授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。

3. 学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、打招呼

第2回 老朋友

第3回 对姓名的钟爱

第4回 礼物的奥秘

第5回 “这是特意为你买的！”

第6回 “你不饿吗？”

第7回 “辛苦了”

第8回 脱大衣的礼节

第9回 忌讳

第10回 白纸黑字

第11回 对钩儿“✓”

第12回 东南西北

第13回 怎么区别

第14回 「いただきます」应该说？

第15回 期末試験

5. 成績評価方法：課題：40%

期末試験：60%

6. 教科書および参考書：<教科書>『小点心—あっさり味の日中文化論—』陳淑梅著、2005年、NHK出版。

<参考書>『日本人が知りたい中国人の当たり前：中国語リーディング』林松濤ら著、三修社、2016年

7. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。

復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：専門中国語

曜日・講時：火曜3限

semester：4 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LB42313, 科目ナンバリング：LHM-CHN202J, 使用言語：日本語／中国語

1. 授業題目：中級中国語読解

2. 授業の目的と概要：この授業では、日中の文化や習慣などの相違点についてのエッセイを精読し、現代中国語の読解力を鍛えるとともに、中国の社会や文化について知識を深める。

3. 学習の到達目標：現代中国語のエッセイを正確に読み解き、日中の文化の違いについて具体例を取り上げながら説明できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

受講生が事前に指定されたエッセイの発音や語彙などを調べ、内容を読んでおく。授業では内容理解度の確認をし、関連することについて話し合う。

<進度予定>

第1回 ガイダンス、打招呼

第2回 老朋友

第3回 对姓名的钟爱

第4回 礼物的奥秘

第5回 “这是特意为你买的！”

第6回 “你不饿吗？”

第7回 “辛苦了”

第8回 脱大衣的礼节

第9回 忌讳

第10回 白纸黑字

第11回 对钩儿“✓”

第12回 东南西北

第13回 怎么区别

第14回 「いただきます」应该说？

第15回 期末試験

5. 成績評価方法：課題：40%

期末試験：60%

6. 教科書および参考書：<教科書>『小点心—あっさり味の日中文化論—』陳淑梅著、2005年、NHK出版。

<参考書>『日本人が知りたい中国人の当たり前：中国語リーディング』林松濤ら著、三修社、2016年

7. 授業時間外学習：予習：辞書などで調べて、指定された箇所を読んでおく。あわせて音読の練習もする。

復習：確認問題で間違えた箇所を復習し、正確な理解を目指す。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：専門ドイツ語

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：松崎 裕人

コード：LB43408, 科目ナンバリング：LHM-GER201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ語読解力の養成とドイツ語基礎の徹底

2. 授業の目的と概要：ドイツ語散文を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。併せて、ドイツ語辞典や補助教材の使用法に習熟する。その作業を通して、ドイツ語基礎を確かなものとする。

3. 学習の到達目標：中級ドイツ語の文献を読解することができる。独和辞典や学習独事典・特殊事典を効果的に使うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1)
- 3 講読 (2) およびビューチャーグンデについて
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4)
- 6 講読 (5) および独辞典の活用
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8)
- 10 講読 (9) および事典の活用
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて
- 14 講読 (13)
- 15 講読 (14) とまとめ (2)

5. 成績評価方法：小テスト（不規則動詞の単語テスト）12回（50%）、授業での発表（50%）

6. 教科書および参考書：テキスト：

R.v. ヴァイツゼッカー（高辻知義 編）：40年目の5月8日に 一大統領の演説—（同学社、800円）
その他のテキストや参考文献については適宜、追加・紹介します。

7. 授業時間外学習：毎回、テキスト1頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：専門フランス語

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：武藤 奈月

コード：LB34402, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代フランス語の文章を読む

2・授業の目的と概要：初級フランス語を一通り学び終えた受講生を対象とした授業で、様々なメディア記事の文章を講読します。ホームページや記事の読解を通して、初級文法の復習を行い、中級文法の知識（半過去と複合過去、単純過去の使い分けや補語人称代名詞の併用、接続法など）を習得します。学期の前半には比較的平易なフランス語の文章を扱い、基本的な文法や語彙の確認をします。後半には新聞等のまとまった分量の文章を扱い、複雑な構文も含む文章を読むことを目指します。また、読解を通じてフランス語やフランス語圏への理解を深めることも目標としています。

3. 学習の到達目標：初級文法を確実に習得し、また中級文法を学ぶことで、フランス語で書かれた記事や学術的文章を読めるようになります。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：ホームページ読解

第3回：ホームページ読解

第4回：ホームページ読解

第5回：雑誌記事読解

第6回：雑誌記事読解

第7回：雑誌記事読解

第8回：雑誌記事読解

第9回：雑誌記事読解

第10回：雑誌記事読解

第11回：新聞記事読解

第12回：新聞記事読解

第13回：新聞記事読解

第14回：新聞記事読解

第15回：新聞記事読解

(授業の内容や進度は、状況に応じて変更する場合があります。)

5. 成績評価方法：平常点（100%）：出席回数や宿題への取り組み、授業内活動への参加等を総合的に評価します。

6. 教科書および参考書：Google クラウドルーム上や教室で資料を配布します。参考書及び辞書については授業中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：予習では毎回、原則として事前に資料の指定された箇所を訳出する必要があります。また必要に応じて、初級フランス語の教科書やノートの関連部分も見直し、文法項目を復習してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

専門フランス語 I と II については、授業の構成は同様ですが扱う文章は異なります。両方を受講しても、どちらか一方の受講でも問題ありません。

科目名：専門フランス語

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：武藤 奈月

コード：LB44402, 科目ナンバリング：LHM-FRE201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代フランス語の文章を読む

2・授業の目的と概要：初級フランス語を一通り学び終えた受講生を対象とした授業で、様々なメディア記事の文章を講読します。ホームページや記事の読解を通して、初級文法の復習を行い、中級文法の知識（半過去と複合過去、単純過去の使い分けや補語人称代名詞の併用、接続法など）を習得します。学期の前半には比較的平易なフランス語の文章を扱い、基本的な文法や語彙の確認をします。後半には新聞等のまとまった分量の文章を扱い、複雑な構文も含む文章を読むことを目指します。また、読解を通じてフランス語やフランス語圏への理解を深めることも目標としています。

3. 学習の到達目標：初級文法を確実に習得し、また中級文法を学ぶことで、フランス語で書かれた記事や学術的文章を読めるようになります。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：ホームページ読解

第3回：ホームページ読解

第4回：ホームページ読解

第5回：雑誌記事読解

第6回：雑誌記事読解

第7回：雑誌記事読解

第8回：雑誌記事読解

第9回：雑誌記事読解

第10回：雑誌記事読解

第11回：新聞記事読解

第12回：新聞記事読解

第13回：新聞記事読解

第14回：新聞記事読解

第15回：新聞記事読解

(授業の内容や進度は、状況に応じて変更する場合があります。)

5. 成績評価方法：平常点（100%）：出席回数や宿題への取り組み、授業内活動への参加等を総合的に評価します。

6. 教科書および参考書：Google クラウドルーム上や教室で資料を配布します。参考書及び辞書については授業中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：予習では毎回、原則として事前に資料の指定された箇所を訳出する必要があります。また必要に応じて、初級フランス語の教科書やノートの関連部分も見直し、文法項目を復習してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

専門フランス語 I と II については、授業の構成は同様ですが扱う文章は異なります。両方を受講しても、どちらか一方の受講でも問題ありません。

科目名：漢文講読

曜日・講時：木曜 3 限

semester：3 単位数：2

担当教員：渡部 東一郎

コード：LB34304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT226J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：漢文訓読入門

2. 授業の目的と概要：漢文を訓読によって読解するための基礎的知識を習得し、また訓読法に習熟することによって、教育や専門的研究の場で必要となる漢文の読解力と語彙力を身につける。

3. 学習の到達目標：漢文を訓読によって読解するための基礎的知識を習得し、また訓読法に習熟することによって、教育や専門研究の場で必要となる漢文の読解力と語彙力を身につけることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

講義の前半で個別の文法事項について解説し、後半で出席者とともにテキストに基づき訓読文と現代日本語訳の作成について検討する。

[進度予定]

- 第 01 講 訓点と文型
- 第 02 講 再読文字
- 第 03 講 使役形
- 第 04 講 受身形
- 第 05 講 否定形 (1)
- 第 06 講 否定形 (2)
- 第 07 講 否定形 (3)
- 第 08 講 疑問形・反語形 (1)
- 第 09 講 疑問形・反語形 (2)
- 第 10 講 疑問形・反語形 (3)
- 第 11 講 比較形
- 第 12 講 限定形・累加形
- 第 13 講 抑揚形
- 第 14 講 仮定形
- 第 15 講 期末試験

5. 成績評価方法：発表・授業への取り組み (50%)、期末試験 (50%)

6. 教科書および参考書：テキストは各回に適宜配布する。参考書は授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：辞書等で調べ、訓読と現代日本語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後に十分な復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週木曜日 12:15~12:45 とする。

科目名：漢文講読

曜日・講時：木曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：渡部 東一郎

コード：LB44304, 科目ナンバリング：LHM-LIT226J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：漢文訓読入門

2・授業の目的と概要：この授業では「諸子百家」の中から儒家・道家・墨家・名家・法家の著名な文章の幾つかを取り上げ、講読する。その中で漢文を訓読によって読解するための基礎的知識を習得するとともに訓読法に習熟し、併せて各学派の思想的特色について理解を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 漢文を訓読によって読解するための基礎的知識が習得でき、また訓読法に習熟できる。
(2) 「諸子百家」の主要学派の思想的特色を具体的に理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

[内容・方法]

授業は受講者に口頭で訓読と現代日本語訳を発表してもらい、それを全員で討議する形で進める。なお、テキストは句読点及び返り点を付したものをを用いる。

[進度予定]

- 第 01 講 ガイダンス
- 第 02 講 『論語』講読
- 第 03 講 『孟子』講読 (1)
- 第 04 講 『孟子』講読 (2)
- 第 05 講 『荀子』講読 (1)
- 第 06 講 『荀子』講読 (2)
- 第 07 講 『老子』講読
- 第 08 講 『莊子』講読 (1)
- 第 09 講 『莊子』講読 (2)
- 第 10 講 『墨子』講読 (1)
- 第 11 講 『墨子』講読 (2)
- 第 12 講 『公孫龍子』講読
- 第 13 講 『韓非子』講読 (1)
- 第 14 講 『韓非子』講読 (2)
- 第 15 講 期末試験

5. 成績評価方法：発表・授業への取り組み (50%)、期末試験 (50%)

6. 教科書および参考書：初回授業時にプリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：辞書等で調べ、訓読と現代日本語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後に十分な復習を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

オフィスアワーは中国思想中国哲学研究室 (617) で毎週木曜日 12:15~12:45 とする。